院。天保六年七月廿七日生。通稱豐之丞。安政二年五月廿二日前代利義の養子たることを幕府に屆出たが、實は五月十八日金澤に病歿してゐたのを、江戸に通報する餘裕がなかつたのである。依つて齊泰は九月に至つて、同姓利行が病の爲に江戸に來る能はず、特にその快癒期すべからざるを以て致仕し、齊泰の七男桃之助(利鬯)を之に代らしめんことを請うたが、幕府は未だ一たびも將軍に謁見せざる藩主を隱退せしめることの極めて異例に屬するが故に、大に難色あつたが、大聖寺侯の元祖が德川秀忠の女天德院の所生なると、利行が德川家齊の養女なる齊泰夫人に子養せられたこと等を理由とし、特別の詮議を以て許可すべき意を漏らし、遂に十月廿九日公然利行の致仕を命じた。加賀藩乃ち十二月十六日利行の遺骸を金澤より發せしめ、その日松任宿泊、十七日小松宿泊、十八日大聖寺に着し、藩侯居館の門前を過ぎて直に實性院に赴き、十九日密葬し、三年正月廿二日初めて發喪、廿八日本葬を執行した。享年廿二(實は去年廿一)。法諡懿香院梅苑齋梢大居士。蓋し死後に於いて就封したるのみならず、爾後九ヶ月に亙つて生存者として取扱はれたことは、他に多く類を見ぬ事例であらう。

マヘダトシミツ 前田利光 →マヘダトシツネ 前田利常。

マヘダトシモチ 前田利以 大聖寺藩主第五代前田利道の六男。母は側室圓成院。明和五年二月廿六日大聖寺に生まれ、初名爲五郎・大學。天明六年九月七日市藩主第八代前田利見の卒する時その嗣となり、閏十月十七日家督相續、七年十二月十八日從五位下大和守に叙任し、寛政二年六月入部、文化五年十一月八日致仕して宗啓と號し、七年江戸の大聖寺藩中屋敷に移り、十二月廿九日鶴心齋と改め、十三年五月廿八日大聖寺に轉じ、更に江戸に出で、文政十一年五月四日卒し、七日發喪したが、後に忌日を四日に復した。享年六十一。駒込吉祥寺に葬り、法號は閑松院鶴心宗齋大居士。

マヘダトシヤス 前田利安 →マヘダシゲヒロ 前田重熙。

マヘダトシヤス 前田利考 大聖寺藩主第八代。前田利精の嫡男、母は敬大院。安永八年正月十日江戸に生まれ、大聖寺に育せられた。幼名勇之助。天明八年十月四日叔父利物の嗣子となり、十二月七日江戸に着し、同月廿七日遺領を襲いだ。寛政四年十二月十六日從五位下飛騨守に叙任、十年十二月十六日從四位下に陞り、文化二年十二月廿五日江戸に卒し、三年正月廿一日發喪、享年廿七。法號峻德院傑岳明恭大居士、實性院に葬つた。

マヘダトシヨシ 前田利好 通稱播磨、初名孫左衛門良繼、天正十七年九月十七日附の判書に孫左衛門安繼に作つたものも見える。父五郎左衛門安勝の祿一萬三千七百石を襲ぎ、七尾城代となり、慶長十五年二月朔日歿した。享年四十六。法號俊巖玉英居士、七尾郊外長齡寺に葬つた。子なく、利家の弟知好その後を襲ぐ。

マヘダトシヨシ 前田利候 →マヘダナリヤス 前田齊泰。

マヘダトシヨリ 前田利順 加賀藩主前田齊泰の四男、母は景德院。嘉永元年十二月廿五日江戸に生まる。幼名龜丸・喬松丸。幕府の内命により、嘉永元年十月廿四日島取藩主池田慶行の妹聰姫の養子となり、十二月廿五日その家督を嗣ぎ、二年閏四月五日登營元服して從四位下侍從因幡守に叙任せられ、諱を慶榮と改めた。三年慶榮初めて入部せんとし、途伏見驛に至つて病篤く、五月廿三日遂にその地に卒した。享年十七。島取の奥谷に歸葬し、榮岳院と諡した。侯天資聰明、加ふるに家臣田村貞彦の輔弼宜しきを得、一藩その大成を期したが、惜しいかな夭逝した。初め島取に在つては、他姓の人を主君とするに就いて多少の物議あり、全く江戸詰の藩吏の專横によるとして憤懣したものもあつた。之を以て前田氏の廣敷に在つては、侯の遷逝を尋常にあらずと傳へる者もあつたが、脚氣衝心の爲であつたことは、京都の典醫及び田村貞彦の日記によりて明らかである。

マヘダトモカツ 前田知雄 加賀藩臣。通稱大學・修理。一諱知久。修理知賴の子。新知千石を受け、享保九年八月若年寄に任じ、元文四年父の致仕料六千石を襲ぎ、後小松御城代並びに御家老に任ぜられ、寛延二年五十五歳を以て歿した。知雄南窩と號し、記性あつて歷史に通じたが、その詩は氣骨に乏しいものであつた。

マヘダトモカツ 前田知勝 加賀藩臣。通稱刑部。初名津田勘八。前田縫殿助利春の子右馬允の孫。初めて前田利長に仕へて六百三十石を受け、大坂の役に御使番を勤め、寛永七年能美郡別宮に置かれ、正保三年歿。知勝から四代六丞の時、貞享三年喧嘩によつて家斷絶した。

マヘダトモサダ 前田知定 加賀藩臣。通稱修理。寛延二年養父修理知雄の遺知六千石を襲ぎ、公事場奉行・寺社奉行・江戸御留守居に歷任し、明和二年九月御家老となり、八年九月九日四十三歳を以て歿した。

マヘダトモチカ 前田知周 加賀藩臣。通稱隼人助・修理。明和八年幼少で父修理知定の祿三の一を襲ぎ、天明二年本知六千石に復し、寺社奉行・定火消を經、享和二年六月御家老、文化九年五月前田齊泰附御用に任じ、天保三年閏十一月致仕した。

マヘダトモトキ 前田知辰 加賀藩臣。初諱吉包。通稱內藏允。修理知好の二子。寛永七年俸二千石を受け、加增して五千四百石に至り、寛永十六年前田利常に從うて小松の家老に任じた。明暦元年三月四日歿、享年廿七。子孫世々藩に仕へる。

マヘダトモヒサ 前田知故 加賀藩臣。通稱萬之助。文政七年新知千石を受け、天保三年父修理知周の遺知六千石を襲ぎ、五年寺社奉行、七年五月御家老、同年九月御用加判を命ぜられた。

マヘダトモヨシ 前田知好 初諱利包。通稱三九郎・七左衛門・修理。利家の三男。母は金晴院。天正十八年十二月八日京都北野に生まれ、慶長元年正月金澤に下り、利長の命によつて石動山に出家し、次いで經王寺に高したが、九年正月復飾し、十五年二月故利家の甥播磨守利好の後を嗣いで遺知一萬三千七百五十石を領し、七尾城代となつた。後大坂の戰に兩次共に殿將を命ぜられたを喜ばず、元和二年京都鞍馬寺勝院に蟄居し、八年出京剃髮して有庵と號した。寛永三年十月利常から蟄居の勅告を受け、四年四月途に上つたが、